

「市民学芸員」と協働企画・運営による企画展紹介

相模原市立博物館 木村 弘樹
市民学芸員（博物館ボランティア） 島山 義道

はじめに

相模原市立博物館では、市民との協働で様々な活動を行っており、特に毎年11月から2月に開催している企画展「学習資料展」には、企画段階からボランティアの「市民学芸員」が参画し、展示を作り上げている。そこで、本稿では相模原市立博物館の学習資料展を通して、ボランティア「市民学芸員」の活躍について紹介する。

相模原市立博物館のボランティア

相模原市立博物館では、平成18年に企画展示の準備に市民が携わる展示協力ボランティアを募集したことを契機に、当時博物館にかかわっていたグループなどを博物館ボランティアとして位置づけた。（平成20年度段階で7グループ）

その後、博物館での講座参加者や所管施設周辺の地域団体などとも連携を深め、平成30年1月現在で博物館と協働で活動をしているボランティアは次の12グループがある。

①市民学芸員／②さがみはら水生動物調査会／③相模原植物調査会／④相模原地質研究会／⑤相模原縄文研究会／⑥民俗調査会／⑦水曜会／⑧福の会／⑨相模原市立博物館天文クラブ／⑩さがみはら動物標本クラブ／⑪尾崎行雄を全国に発信する会／⑫ふじの里山くらぶ

上記のとおりボランティアグループの分野は人文系、自然系など多岐にわたり、各グループの登録者合計は300人以上で、年間活動延べ人数は2,700人以上となっている。（平成29年度）

各グループは担当学芸員らとともに資料整理、調査研究、教育普及など様々な場面で活動し、ボランティア連絡調整会議にて情報交換なども行っている。そして、各グループの成果発表の場として毎年11月に「学びの収穫祭」を開催している。

なお、この「学びの収穫祭」には近隣や普及事業等に関わりがある小・中・高・大学生らの参加もある。

博物館ボランティア「市民学芸員」

市民学芸員は、平成18年度に募集した展示協

力ボランティアを母体に生まれたものである。平成30年度現在、30代～70代の47名が登録している。その主な特徴は次のとおりである。

- ・博物館が2～3年ごとに市の広報などで新規募集を行っている。（広報募集は市民学芸員のみ）
- ・基礎的な研修ののち登録票を提出。（継続希望者は毎年登録票を提出）
- ・博物館主催事業へのスタッフ協力以外に、市民学芸員の企画・運営による様々な活動もある。
- ・組織・団体ではなく、あくまで登録者個人の集まりで、会長などはおかず、団体規約などもない。
- ・博物館が用意・支給しているものは登録者用名札と活動時に着用するブルゾン等。

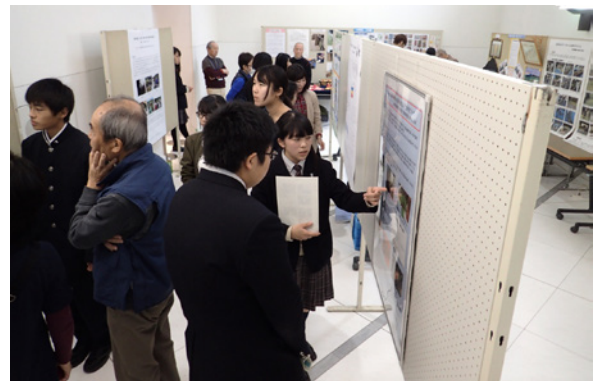


図1 活動の成果発表「学びの収穫祭」



図2 市民学芸員企画運営のクイズラリー

定例的には、毎月第3水曜日に全体ミーティングを開催し、博物館からの協力依頼、各チームが

表1 市民学芸員活動計画表

平成29年度 市民学芸員 活動計画表													
事業名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
定例ミーティング	★	★	★ 館外研修 6/21平塚市博	★	★	★	★	★	★	★	★	★	第3(水)
ボランティア 連絡調整会議 (学びの収穫祭対策会議)	★ 報告		★ 報告		★ 報告		★ 報告		★ 報告		★ 報告		偶数月・第2(木) 報告は次回ミーティング
星空観望会	★★	★★	★★	★★	★★★	★★	★★	★★	★★	★★	★★	★★	月の前後半(金)か(土) 8月は毎週1回
親子天文教室 贈うさぎづくり				★ 天文教室							★2/12 贈うさぎ		→28年度は 天文教室 8月6日 贈うさぎ 2月5日
展示替え検討会 (チーム)	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	原則 第1(水) パネル表示・民俗展示 クイズ設置の3グループ
クイズラリー (チーム)	設問検討 集約	→	例会報告 設問決定	学芸員 チェック	パターン作成 例会報告 開催8/19,20								→28年度は 8月27・28日
学習カードづくり (チーム)		★	★	★	★	★	★	★					第2(水)午後 11月まで毎月1回
学びの収穫祭 (チーム)				方針・内容 検討	資料収集	→	発表内容 まとめ 例会報告	パターン作成 開催★					→29年度は11月18・19日
学習資料展 準備・回収 (チーム)		★ 準備会1	★ 準備会2	★ 準備会3	★ 準備会4	★ 準備会5	★ 準備会6	→	→	→	→	→	→29年度は 11/14(火)～2/25(日) 準備会は 第2(水)午前 →
チャレンジ体験				★7/23	★8/27			★11/19	★12/3 ★12/17	★1/7 ★1/21	★2/4 ★2/18		学習資料展開催期間中に 隔週実施
紙芝居クラブ (有志)				★ 七夕行事				★★ ★宇宙フェス	★★	★★	★★		学習資料展の体験事業 以外にも随時対応
かるたづくり (チーム)	絵札作成に 向け検討	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	解説文の検討を終了 絵札作成の段階に移行
博物館出前授業 のサポート	通年で 随時対応	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	日時・内容・人員などの 情報の事前提供が必要
市民学芸員の募集			6/15号 広報等で募 集	講習会(3 回) 7/23,26,29	実践参加 (クイズ・チャ レンジ)	登録 活動参加							講習会の現役講話の入 選・活動参加でのレク チャー
企画展等の予定	考古展	→	地質展	→	津久井資料 室展	→	天文展	→	学習資料展 11/14～ 2/25	→	→	→	考古展

* 上記以外にも、星づりWS等の動員要請や、市民学芸員の個人発表機会等が想定されるが、随時検討し協力的に対応する。

らの連絡のほか各種研修等を行っている。

市民学芸員の全体的な活動は上記の表1のとおりであるが、各人が負担に感じるようなことがない範囲で各活動に参加している。

チームは各人が任意で参加する自主活動を行うグループで、展示替え検討、クイズラリー、学習資料展、紙芝居上演、ふるさといろはかるた作りや、学習カード作製、イベント補助などがある。

この中で、小・中学校の学習に役立ててもらうため毎年開催し、昔の生活道具や家電製品などを紹介する「学習資料展」の企画・運営に大きく関わっているのが学習資料展チームである。

市民学芸員との協働企画・運営による「学習資料展」

「学習資料展 ちょっと昔の暮らし」は、毎年11月頃から2月頃まで開催している企画展で、主にはこの期間に来館する市内公立小学校4年生の「昔の暮らし」の授業に合わせて行っている収蔵品展である。平成30年度で14回目となるが、市民学芸員が担当職員とともに企画、展示資料検討・選定、展示のジオラマ制作、展示準備、会期中イベント、展示片付けなどに大きく関わっている。現在、学習資料展チームには11名の市民学芸員が参加しており、例年次のようなスケジュールで取り組んでいる。

表2 学習資料展のスケジュール

5月	第1回準備会…前年度の反省・評価の確認、当該年度の展示の方向性
6月	第2回準備会…展示概要、テーマの検討
7月	第3回準備会…大まかな展示物やジオラマ、レイアウト案の検討
8月	第4回準備会…コーナーごとの展示資料検討、レイアウト案の調整
9月	第5回準備会…展示資料リスト案作成、レイアウト案決定
10月	ジオラマ材料など必要物品調達 第6回準備会…展示リスト、レイアウト最終調整、展示資料現物事前確認
11月	展示準備…ジオラマ制作、パネル設置、資料列品、キャプション・サイン等設置
会期中	関連イベント：チャレンジ体験（昔あそび・道具体験）会期中の第1、3日曜に開催
2月	展示片付け
3月	市民学芸員へのアンケート配布・回収

学習資料展の6回にわたる準備会では、チーム内で活発な意見が出され、展示内容やレイアウトも担当学芸員が準備会で出た意見をもとに検討し、作り上げている。特に、学習資料展の目玉のひとつである市民学芸員による昔の教室や居間などのジオラマ制作は毎年好評を得ている。そして、パネル設置、列品など直前の展示準備作業には市民学芸員全体に声かけを行い、チーム以外の

者も含め毎日15名ほどの協力を得てオープンにこぎつけている。

また、会期中の第1、3日曜日には関連イベントである「チャレンジ体験」を開催している。チャレンジ体験は、ブンブンゴマ、割り箸鉄砲などの昔あそびや、石臼、薬研などの道具の体験を市民学芸員がやさしく指導しながら来館者に楽しんでもらうイベントである。また、時間を決めて昔ながらの雰囲気で行われる紙芝居やレコード試聴、市民学芸員制作の「ふるさといろはかるた」大会なども合わせて行っている。



図6 児童に解説(右奥はタイムトンネルジオラマ)



図3 居間のジオラマ制作



図7 チャレンジ体験：昔あそび(折り紙)



図4 昭和50年代の教科書などを展示



図8 チャレンジ体験：昔ながらの紙芝居



図5 教室ジオラマと学校見学

学習資料展の課題・展望

学習資料展は、子どもたちには珍しいものが、そして大人にとっては懐かしいものが展示され、親・子・孫の三世代に楽しんでもらえる機会となっている。それは、展示室内にある「思い出掲示板」というアンケートコーナーでも、「初めて〇〇を見た、触った」という子どもや、「昔我が家にも同じものがあり、大変懐かしく思った…」

などの大人の感想が多く寄せられていることから実感できる。

今後も学習資料展を継続して開催していく予定であるが、次のような課題があると考えている。

- ①学習資料展は、「ちょっと昔の暮らし」という大テーマから、展示資料について毎年同じような資料の展示となるため、切り口、レイアウト、見せ方などを工夫する必要がある。
- ②収藏品展という性格上、博物館で行う企画展としては予算が少なく、まさにボランティアたちのマンパワーで開催している状況である。
- ③博物館の生活資料の収藏品は、昭和40、50年代ぐらいまでの物が多く、それ以降の収藏品は比較的少ない。しかも収蔵庫の空きスペースの関係で新しい資料を積極的に受け入れることが難しく、さらに、近年の家電製品の変化も非常にめまぐるしい状況である。つまり、将来的には収藏品だけで「ちょっと昔の暮らし」を再現することが困難になってくる。

上記の課題を克服するにも、市民学芸員の知識、経験、意見、協力がさらに必要になってくると考えられる。実際、平成29年度の学習資料展では、「パパ・ママの子ども時代」として、昭和50年～60年代の資料を展示したが、多くの資料（特におもちゃ等）を市民学芸員に呼びかけ持ち寄ってもらい、インパクトのある展示にすることができた。



図9 平成29年度学習資料展の「おもちゃの移り変わり」

博物館ボランティアの課題・展望

現在、相模原市全体としてもボランティア活動の支援には積極的で、市民協働を推進するセクションを設け、市民協働事業などを行っている。当館でも、学習資料展に限らず、資料整理、調査研究、教育普及など多くの活動においてボランティアが関わっている。もっと現実的に言えば、ボランティアがいなければ企画展もイベントも現状のような人員体制のもとで実施できないほど、博物館の大きな存在として活躍している。

博物館ボランティアの課題としては、高齢化、固定化、新規参加者の獲得難などが挙げられる。当館の市民学芸員は、ほぼ定期的に広く公募を行うことで比較的上記の課題の影響は少ないが、それでも残念ながら継続されない方もいる。

ボランティア活動では、少なからず時間や、時には労力をも博物館のために費やしてもらっている。それでも、登録を継続されるボランティアが多くいるのは、活動に参加することで何らかの「やりがい」を感じているからであろう。その「やりがい」とは、活動やイベントなどでの達成感、仲間との出会いなど多種多様であると考えられる。

博物館そして担当学芸員は、ボランティア活動に参加してもらおう中で信頼関係を築き、その「やりがい」を見つけてもらえるようコーディネートしていくことも必要である。その結果、今後も意欲がある多くのボランティアと協働で支え合う、地域に根差した博物館にしていくことができると考えられる。

参考資料

2018 相模原市立博物館 『平成29年度 相模原市立博物館年報』

この報告文は、2018年2月10日開催のシンポジウム「博物館のまわり：ボランティアの活躍」（於：川崎市市民ミュージアム）での事例発表をもとに、再構成したものです。